

令和元年度第1回安全対策連絡協議会議事録

1 日時・場所 令和元年7月30日(火) 11時00分～12時05分
於：在東ティモール日本国大使館多目的ホール

2 出席者(在留邦人11名, 大使館6名, 計17名)

- (1) JICA関係者 4名
- (2) 建設・コンサルタント関係者 2名
- (3) 旅行業関係者 1名
- (4) その他在留邦人 4名
- (5) 大使館職員 6名

3 議事内容

(1) 冒頭挨拶(館長代理)

お忙しい中の在留邦人の方々の本件安全対策連絡協議会参加に感謝したい。安全対策連絡協議会にあつては、在留邦人の方にとって有為な情報を提供するような立て付けにするべく工夫していきたいと考えているので、冒頭数点ご紹介することとしたい。

ア 住民投票20周年記念式典(8月30日)行事は、8月当初から全国13

Municipality(県)毎に担当閣僚を割り振って、全国規模で祝賀の行事を展開することが、政府公式サイトで宣伝されており、特に、8月25日からは友好国要路(モリソン豪州首相、ハビビ・インドネシア元大統領或いはジョコウィ大統領、ポルトガル国会議長、米務省高官等)が順次到着、8月30日の式典及びTasi Tolu地域での祝賀行事を経て、31日には外国賓客は一斉に当地を離れるとのおおむねのスケジュール感となっている。在留邦人の方々におかれては、外国賓客の当地発着時のニコラウ・ロバト国際空港及び市内の警備強化及び交通規制を想定されて日々の活動を計画立てられることをおすすめしたい。

イ 先の話ではあるが、国祭日(天皇誕生日レセプション)は2月23日となったところ、当館主催のレセプションも来年2月を目処に、レセプション自体の形なり招待客範囲と合わせて計画が立てられることになる。

ウ 商用航空機の選択肢が限られる状況の中、当地航空行政当局関係者は、マレーシアを始め新たな商用航空ルートの開設への働きかけを展開しているが、なかなか成果が出てきていない状況にあり、中国の一地方の商用航空運航会社に関心を示しているとの公開情報もあったが、中国と当国との間の航空協定交渉が先行することになるので、即座に新しい商用航空ルート開設ということではないと考えられる。

また、カタル航空当局も東ティモール航空当局との間で航空協定交渉を開始させたとの公開情報があり、当館も外務・協力省に質問・照会したところ、「かかる航空協定の交渉は途端についたばかりであり、具体的な航空ルート云々の話には至っていない」との説明に接している。

(2) 東ティモール内政の動き等について（政務担当）

ア 昨年6月に新たな政権（第8次立憲政権）が発足したわけだが、閣僚（9人）の未承認問題は継続中であり、大統領と議会、与党連合との間での緊張感が常にはらんでおり問題は解消されていない。このような状況下であっても、2020年度予算編成に向けての開発パートナー会合が3年ぶりに開催されたことは内政面では明るいニュースと言える。

イ Z E E S M（オエクシ・アタウロ経済開発特区）の代表は、フレテリン幹事長のアルカティリ氏がつとめている。2012年の法律では当該代表の決定権は大統領にあり、当時アルカティリ氏が指名された経緯があるが、同法では5年後に代表を交代することが規定されているため、当該任期が本年7月25日までであったことから、120日以内に新たな代表が選出されることとなるが、今後も政治的駆け引きが続くものと思われる。（当館注：7月31日付でアルカティリはZ E E S M代表を辞め、政府は新代表を選考中。）

ウ 外交面では、豪州との海洋境界線確定条約締結に伴う批准に向けての国内法改正を豪州及び東ティモールがそれぞれ進めている状況である。東ティモールでは議会の承認を終え大統領に上がっている状況であり、30日以内に承認の可否を大統領は決定する必要があるが、大統領と議会、又は与党との緊張関係があることから大統領が承認するか否かは予断を許さない状況と言える。

エ 東ティモールのASEAN加盟の話題であるが、東ティモールは2011年にASEAN加盟の申請を行い交渉を継続しているが、去る5月～7月にわたりバボ外務・協力大臣がASEAN歴訪を行うなどASEAN加盟に向けに精力的な外交を展開している。また、外務・協力省のみでなく、法務省・国防省・財務省等の関係省庁の職員をスタディ・ツアーを名目にASEAN中央事務局のあるインドネシア・ジャカルタへ送るなど、加盟に向けた活動を行っているとともに、ASEAN側からも本年9月にミッションが来訪する予定であるなど、ASEAN加盟に向けた動きが見られる。

オ インドネシアとの関係では、インドネシアと東ティモールとの間の陸上国境の交渉が行われており、先日オエクシとの陸上国境線の確定が決着し、今後は海上国境の問題に移行して行く状況である。

カ お手元の「8月30日直接住民投票20周年記念式典」にかかる行事予定資料をご覧願いたい。8月に入ると各県での式典が始まり、最後にディリのTasi Toluで式典が行われ、約1ヶ月に亘り関係行事が実施される予定である。

キ 東ティモール人の労働者派遣については、既に豪州や韓国への派遣が先行しているが、東ティモール政府からは日本への派遣についても要望が出されており交渉を始めている。日本へ派遣するための在留資格（技能実習、特定技能）等のような形で派遣できるのかは、まだ検討が始まったばかりである。

(3) 安全対策上の留意点（治安・警備担当）

ア お配りしている資料は、本年2月から6月末までにディリ中心部で発生した事件をまとめたものである。依然としてラマアンボン（鉄製の矢）による事件が発生している。また、3月25日には中国人が現金を奪われる強盗事件、5月26日にはホテル・ティモールの前で精神疾患の男性が突然なたで切りつける事件も発生しており、市内でも当該疾患と思われる者と遭遇した場合は反感を買わないよう注意が必要である。

イ 犯罪傾向につき説明する。主に家族間、又は近隣住民間のトラブルから周囲を巻き込んだグループ衝突が多く発生する傾向にあり、鉈・刀等の刃物を使用するケースもある。事件発生時間帯は、以前は深夜や早朝が中心であったが、最近では夜の8時～9時や朝の6時～7時でも多く発生しているため当該時間帯も注意が必要である。金曜日以降の週末の夜間は酒に酔った若者が喧嘩や投石を行っている事案が発生しており、大きな事件に発展していない場合もあるが、特に夜間の徒歩での移動は厳に避けるべきであり、タクシー（青色）利用や単独行動を避ける等、自己防衛に努めるべきである。夜間のパーティー会場などの現地住民が多く集まる場所では、投石や刃物を振り回す危険行為も発生しているため注意が必要である。

ウ 当地では、中国人に対する感情が良いとは言えず、街中でも日本人が中国人と間違われるケースも多いので、日本人であることをはっきりと表明することが肝要である。在留邦人が中国人に間違われ暴力事件に巻き込まれるケースも発生している。

エ 銀行で多額の現金を引き出す際は、周りに注意を払い、寄り道をせず事務所に持ち帰ることが大切である。外国では「外国人はお金持ち、多額の現金を持ち歩いているのでは」との思い込みからターゲットになりやすいと認識すべきである。当地でもインドネシアの窃盗団が暗躍している等の情報もある。また、長期に住居を空ける、不在にする際は、例えばパソコンを目に見える場所に放置しない等自らの備えをお願いしたい。

オ 群衆心理について述べると、例えば、交通事故が発生すると人々が集まってきて、事故の当事者でもない者達が事故車のドアを開けようとする等の事故に便乗して群衆が騒ぐ、または、暴力等の過激行動に出るといった群衆心理の怖さを感じることもある。また、当国ではプライドが高い者も多く、プライドを傷つける行為は事件・事故に発展する可能性もあるため、不要なトラブルに巻き込まれないよう注意する必要がある。

カ 在留邦人の方の中には、当国以外の第3国に旅行に出かけることもあると思うが、

旅行先での宿泊施設では非常口は確認しておく等、万が一火災や事故が発生した際の避難ルートは確保しておくことをお勧めする。

(4) 医療情報（医務官）

今回は、睡眠不足が万病の元になるとの観点から「睡眠」について話をしたい。

ア まず、生物の内、脊椎動物につき「睡眠」が確認されているが、中でも人間同様 REM（レム）睡眠と non-REM（ノン・レム）睡眠が確認されているのは鳥類とほ哺乳類である。渡り鳥等の長距離を移動する鳥類は、脳を交互に半休させる半球睡眠という仕組みを持っている。また、イルカや鯨についても呼吸のため海面に出るなど常に動いていることから、同様に半球睡眠のメカニズムを持っている。

イ 人間の睡眠についてであるが、REM 睡眠について聞かれたことがあると思うが、正式には、Rapid Eye Movement（急速眼球運動睡眠）と言い、REM 睡眠しているときは人間は盛んに眼球を動かしていることが確認されている。これは、脳が覚醒し骨格筋が弛緩している状態である。REM 睡眠状態で目が覚めると、夢を見ていた、または夢を覚えているということが良くあるが、non-REM 睡眠の時に起きると、実際にはREM 睡眠の時に夢を見ていてもそれを思い出せない場合がある。

ウ 配付資料に睡眠の深さを表すグラフがあるが、睡眠後にステージ4まで一気に深い眠りとなり、1時間後にはREM 睡眠状態に戻り、その後90～100分周期で5回ほど繰り返すと言われている。ステージ3～4と言った深い眠りは、睡眠直後にありその後は緩やかに浅い眠りに移行していくのが通常である。ちなみに、ステージ1～4はnon-REM 睡眠状態を表している。

エ non-REM 睡眠はステージ1からステージ4までに分類され、「熟眠感」に関係する。翌朝起床時に「よく寝た、または寝たりない」と感じられるのは、入眠から3時間～3時間半までの深い睡眠が、ステージ3乃至4までにどれだけ到達しているかに関係してくるものである。

オ 睡眠の役割は、①心身の休息、②成長・新陳代謝の促進、③記憶の定着、④免疫力の増強、⑤日中の活動準備が上げられるが、例えば、睡眠と成長・新陳代謝の促進がどう関係しているかと言うと、ステージ3～4の時に成長ホルモンが分泌される。言い換えれば、ステージ3～4の時に十分なnon-REM 睡眠を得られない（睡眠不足状態）と成長ホルモンが十分に分泌されず新陳代謝が鈍化すると、大人になっても健康に影響を及ぼすこともあるので、新陳代謝を高める上でも大切なホルモンと言える。また、グルココルチコイドというホルモンは朝になるに従って分泌量が増えるもので、ストレスホルモンとも呼ばれており、強いストレスを感じたときにも分泌されるものである。起床時、仕事や学業と言った日常活動の開始に向けたコンディションを整えるものであるが、分泌しすぎると高血圧等の慢性疾患を引き起こすことがある。

カ 睡眠不足の心身への影響であるが、①発育・新陳代謝への悪影響、②高血圧、狭

心症、糖尿病等の生活習慣病への影響、③肥満、④集中力低下による学業・仕事への影響が上げられる。また、統合失調症やうつ病等の精神疾患においては睡眠障害が現れるケースも多い。

キ まとめとして、「熟眠するためにはどうしたらよいか」につき説明したい。まず第一に、起床時間を一定にすることを心がけることである。起床する時間を一定にし、太陽の光を浴びること、朝食を摂ることで体内時間をリセットすることが大切である。その他、夕食をとる時間を気をつけたり、入浴等で入眠しやすい体内環境を整えることをお勧めする。飲酒は傾眠作用はあるものの、質の良い睡眠を得られるとは言えないので、飲酒はほどほどにすることも肝要である。

ク 最後に当地医療状況にふれたい。昨年に比べデング熱への罹患者が多く発生しておりその数は3倍以上とも言われている。防蚊対策を十分に行うことが大切であり、睡眠も免疫を高める意味でも効果的である。また、WHOの統計によれば、当地はマラリア汚染地域にはなっているものの、去年はマラリア患者は発生していないとの報告もあるが、山間部では引き続き注意が必要である。

7月上旬時点での情報であるが、当地スタンフォード・メディカルでは狂犬病のワクチンが在庫切れになっているとの情報がある。狂犬病に関しては、暴露前ワクチンをあらかじめ接種している場合は仮に犬にかまれても、狂犬病ワクチンのみの接種でよいが、暴露前ワクチン接種がない場合は狂犬病ワクチンに加え抗体も接種する必要がある。スタンフォード・メディカルに常備されているのは狂犬病ワクチンのみであるので、当該抗体接種のためには、デンパサールやダーウィン等に行く必要が出てくるので、犬にかまれないことが肝要である。

(5) 国際協力事業関係者の安全対策（経済・開発協力担当）

今回は安全対策ではないが、当地での経済、開発協力関係につき情報提供したい。ディリ港のフェリーターミナル緊急移設と東ティモール国立大学工学部新校舎建設の無償のODA事業2件が本年10月以降に終了する予定である。経済状況については、当地の日本企業はODA事業事業者が中心であるが、当館による日本企業への支援部分もあると思うので、例えば政府関係者へのアポイントの取り付けや弁護士の紹介、税務関係の調査等お困りの際はまずは相談願いたい。

(6) 領事関係（領事担当）

ア 日本国内では7月21日に「第25回参議院議員通常選挙」が実施されたが、それに先立ち、7月5日から13日までの9日間、当館においても在外公館投票が実施された。結果、投票者数は18人であり、3年前の前回の参院選の在外公館投票の12人より投票者数は増加した。しかしながら、未だに在外選挙人名簿への登録申請（在外選挙人証の申請）が少ない状況である。次回は衆議院選挙が実施されると思われるが、申請から交付までには約2か月を要するため、まだ在外選挙人証をお持ちでない方は、今後とも申請をお願いする。

イ 日本では、夏休みシーズンとなり海外渡航者が増加する時期となるが、当地在留邦人におかれても、例えば、隣国インドネシア・バリ島へ渡航する方もいると思われる。インドネシアに限らず、自分の居住国以外に渡航する場合は、“たびレジ”に登録することにより渡航先の安全情報等が配信されてくる。最近、インドネシアの在デンパサール日本国総領事館が発信した安全対策情報を参考までに配布する。

「在留届」及び“たびレジ”登録者宛に発信されたものであり、自然災害等有益な情報が記載されているので、是非一読願いたい。

ウ 本年2月（前回）の安全対策連絡協議会でも注意喚起をさせてもらったが、当地で旅券を紛失した場合2週間程度足止めとなるので、関係の出張者等には旅券の紛失には十分に注意してほしい旨発言した経緯がある。

理由としては、旅券に代わる「帰国のための渡航書」を当館で発給したとしても、当地出発前にあらかじめインドネシア入国査証の発給を受ける必要があること、また、新しい日本旅券を発給するにしても、旅券作成は東京の外務本省で行われるので、作成された旅券の到着を待たなければならないためである。

インドネシア入国査証に関しては、ジャカルタの日本大使館を通じ、インドネシア入管総局との調整を行うなど鋭意取り組んできたが、インドネシア側の回答としては、「インドネシア入国査証 (Visa kunjungan 1(SATU) kali perjalanan / Single Visit Visa)」を取得する必要があるということであった。

以上、当地での旅券の紛失は大きなリスクを伴うものであることを認識いただき、関係者への注意喚起をあらためてお願いする。

エ 外務省では、毎年10月1日現在で、在留邦人実態調査を行っている。毎度のお願いであるが、3ヶ月以上滞在する方は「在留届」の提出を励行願いたい。在留邦人実態調査では、可能な限り実態との乖離を少なくするため、調査時期には昨年同様「在留状況の確認メール」を発送し在留状況を確認する予定であるのでご協力をお願いしたい。

(7) 在留邦人からの情報提供（当地フライト状況について）

ア 本年6月に、ディリークパン便が就航しており、航空券は片道70～100ドルで販売されている。座席数はエコノミークラスで70席ほどあるが、座席の確保や値段は実際に予約してみないと分からないのが現状である（当該フライトは、昨年2ヶ月間のみ就航した経緯があるが、今回は座席が確保できない場合もあるので乗客が増えている？との印象）。スケジュールは、月・金の週2回就航で、クパン発（現地8時45分）→ディリー着（10時45分）、ディリー発（11時15分）→クパン着（11時15分）（飛行時間は1時間）である。

現在デンパサール便の値段が高騰しているため、クパン経由でのフライトスケジュールや料金の問い合わせがあり調べてみると、デンパサールまでの乗り継ぎは可能で、料金も片道100～200ドルで販売されているようだが、日本往復となる

とクパン経由は不便（帰路は、デンパサール、クパンそれぞれの宿泊が必要）でお勧めできない。

イ 当地到着時の「ON ARRIVAL VISA」についてであるが、本年当地入管により「東ティモールに入国する際は外国にある東ティモールの在外公館で査証を事前取得する必要がある」との突発的な措置で混乱を招いた事案があったが、邦人からも査証の事前取得の照会を受けることがあり情報収集した結果、邦人渡航者から聞く限りでは、従来どおり「ON ARRIVAL VISA」を空港で取得することで問題なく入国できている模様である。

(7) まとめ（館長代理）

東ティモール国家警察（PNTL）関係者からの説明では、8月末の「住民投票20周年記念式典」関連行事に万全を期する為に、PNTLと東ティモール国防軍（F-FDTL）の合同パトロール部隊が設置されており、特に8月中旬以降の行事本体実施日に向けて、ディリ市内での警備体制強化及び交通規制（検問含む）の実施を計画しているとのことである。例えば、運転免許証の抜き打ち検査、行事直前には外国からの賓客来訪に関連し大規模な交通規制を行う由である。在留邦人の皆さんにおかれては、当国治安当局のかかる動向を踏まえて行動されるよう留意願いたい。

（了）